

高松の音楽ミーム

今年の大晦日の夜は、アルファあなぶき大ホールで「第2回UDON楽カウントダウン高松コンサート」を聴きながら過ごす予定です。このコンサートは、地元の音楽家達が、仲間が正月に帰省するのに併せて一緒にクラシック音楽で年越しをしようと企画され、昨年から開催されているものです。当日は、エルガーの「威風堂々」の演奏と大合唱で新年を迎えることとなっています。

明けて2014年。3月には、創造都市推進ビジョンにいう「祝祭」のメインプログラムである「第3回高松国際ピアノコンクール(TIPC)」が開催されます。2006年に第1回、2010年に第2回が開催され、それぞれ成功を収め、高い評価を得てきました。今回も出場者の年齢制限を厳しくしたにもかかわらず、ほぼ前回並みの世界20の国と地域から239名の応募者があり、厳正な審査で選ばれた40名の若手ピアニストが高松に集結し、本選に臨みます。

一方で、今年このTIPCの創始メンバーであり功労者であるお二人の方が鬼籍に入られました。3月に亡くなられた石井瑠璃子さん(音楽委員会委員長)と9月に亡くなられた堤俊作さん(音楽監督)です。特に、石井瑠璃子さんは香川音楽連盟を率い、県内クラシック界の支柱とも言える方でした。悲しみを乗り越えお二人のご遺志に報いるためにも、是が非でも成功に導いていかなければなりません。

「ミーム」(文化遺伝子)という概念があります。リチャード・ドーキンスが著書『利己的な遺伝子』の中で提唱したもので、情報や文化が発生し、模倣によって伝達され、そして淘汰されてゆく、その一連の有様を遺伝子による適応進化になぞらえた概念です。高松の街で、全国でも珍しい手作りのクラシックのカウントダウンコンサートが行われるのも、また、地方都市では稀な正式の国際ピアノコンクールが継続して開催できるのも、これまで先人が培ってきたこの地の音楽を愛するミームが引き継がれているからと言えなくはありません。

街を挙げて「祝祭」を盛り上げ、楽しみたいと思います。

(正月号ですが、年の言い方は旧年中のものにしています。)